

# 2020 横浜スポーツ学術会議

## 募金趣意書

2020 年横浜スポーツ学術会議 組織委員会  
日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会  
日本スポーツ体育健康科学学術連合 (JAASPEHS)  
一般社団法人日本体育学会

ご挨拶

2020 横浜スポーツ学術会議 会長  
阿江通良, 深代千之

2020年9月8日から12日までの5日間、ICSSPEの協力を得て2020横浜スポーツ学術会議が、2020年夏季オリンピック・パラリンピック大会に伴って横浜で開催されます。日本での開催は半世紀ぶりになります。開催地の横浜は東京に隣接しており、成田や羽田という日本の代表的な国際空港からのアクセスも非常に容易です。また、横浜は長い鎖国を続けていた日本を海外に開く拠点となった歴史的かつ国際的な都市でもあります。

2020横浜スポーツ学術会議のテーマはContributing to Sustainable Worldです。現在、地球や世界には様々な技術革新に伴う問題が山積しています。幸い、我々の関わっている体育・健康・スポーツは、人々を育んで高め、身心の健康を維持し、そして楽しみを分かち合うという、誰もが受け入れられる多くの価値を持っています。今こそ、様々な分野の人々が世界中から参集して意見交換そして議論して、その価値を再認識するだけでなく、知恵を出し合って共有価値を創造し（Creating shared value）、Contributing to Sustainable Worldしようではありませんか。

皆様に横浜でお会いできることを心から願っております。

2020年横浜スポーツ会議組織委員会  
組織委員長 来田 享子

2020年横浜スポーツ会議を2020年9月8日（火）～9月12日（土）の日程で、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜ノースにて開催することとなりました。

この会議の起点は、1964年オリンピック東京大会にあるとされ、以来、開催形態や名称は変化しながらも、大会開催国の都市において、体育学、スポーツ・健康科学の国際規模の学際的学会議として継続されてきました。

2015年に全面改定されたユネスコの「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」では、体育・身体活動・スポーツは、個人やコミュニティ、社会全体に幅広い恩恵をもたらすことができること（Physical education, physical activity and sport can yield a wide range of benefits to individuals, communities and society at large）が強調されました。同じ年に国連では「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダには、17の国際目標の達成に向け、スポーツが重要な役割を果たすことが明記されています。開催準備中の会議は、“Contributing to a Sustainable World”（多様な人々が共に生きる世界をめざして：体育・健康・スポーツ科学の貢献）をテーマとし、身体活動やスポーツを通じ、より良い社会を築き、世界の平和に貢献する国際的なレベルでの議論を深めることをめざしています。国際社会のグローバル化にともない、メガ・スポーツイベントが開催されるようになったことを受け、スポーツを取り巻く社会環境は激変しています。会議では、スポーツに関わるテクノロジー、人権課題、スポーツの価値の有効な活用、スポーツ・ビジネスの発展等、様々な学問分野、様々な社会的立場の人々の対話が促進されることにより、未来に貢献することが期待されます。

若い研究者である大学院生・学生が参加しやすいよう、費用を約半分に設定しました。この会議は、あなたに世代を超えた対話の機会を提供します。どうか、スポーツを通じて持続可能な社会の未来をめざす国際的な研究ネットワークの一員になってください。

## 会議の概要

### 1. 会議の名称とテーマ

#### 1) 会議の名称

和文名： 2020 横浜スポーツ学術会議

英文名： The 2020 Yokohama Sport Conference

#### 2) 会議のテーマ

“Contributing to a Sustainable World”

(多様な人々が共に生きる世界をめざして：体育・健康・スポーツ科学の貢献)

### 2. 主催・併催機関などの名称

#### 1) 主催・主管

2020 横浜スポーツ学術会議 組織委員会

日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会

日本スポーツ体育健康科学学術連合 (JAASPEHS)

一般社団法人日本体育学会

#### 2) 協力

International Council of Sport Science and Physical Education (ICSSPE)

独立行政法人 国際観光振興機構

#### 3) 後援

スポーツ庁、日本スポーツ振興センター (JSC)、日本スポーツ協会 (JSP0)、日本オリンピック委員会 (JOC)、日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会、笹川スポーツ財団、全国大学体育連合、日本フィットネス産業協会、神奈川県、横浜市、神奈川新聞、tvk (テレビ神奈川)

### 3. 開催期間

2020年9月8日(火)～9月12日(土) [5日間]

### 4. 開催場所

パシフィコ横浜 ノース

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目1-1

電話 TEL. 045-221-2155 (総合案内)

### 5. 主催責任者

#### <主催>

2020 横浜スポーツ学術会議推進委員会

顧問 福永 哲夫 鹿屋体育大学名誉教授・前 JAASPEHS 代表  
元日本体育学会会長・元日本学術会議分科会  
委員長

会長 阿江 通良 JAASPEHS 代表・日本体育大学

深代 千之 日本体育学会会長・東京大学

副会長 友添 秀則 日本体育学会第一副会長・早稲田大学

桜井 伸二 日本体育学会第二副会長・中京大学

來田 享子 JAASPEHS 副代表・日本体育学会副会長・

中京大学

監事	池上 康男	日本体育学会監事・愛知淑徳大学
	高橋 和子	日本体育学会理事・静岡産業大学

< 主管 > 2020 横浜スポーツ学術会議組織委員会

組織委員長	來田 享子	JAASPEHS 副代表、日本体育学会副会長、 日本学術会議分科会幹事
副委員長	田原 淳子	日本学術会議分科会委員長、 日本体育学会特別委員会委員
委員	菊 幸一	JAASPEHS 監事、日本スポーツ社会学会
	岡出 美則	日本体育学会特別委員会委員、 日本体育科教育学会
	三木 ひろみ	日本体育学会特別委員会委員、 日本スポーツ教育学会
	須田 和裕	JAASPEHS 運営副委員長、日本体力医学会
	船渡 和男	JAASPEHS 運営委員、東京体育学会
	八木 ありさ	JAASPEHS、日本女子体育連盟
	高峰 修	JAASPEHS 監事、スポーツとジェンダー学会
	松岡 宏高	日本スポーツマネジメント学会

事務局 2020 年横浜スポーツ学術会議 事務局  
株式会社コンベンションリンクージ内  
TEL : 03-3263-8695 / FAX : 03-3263-8693  
E-mail : yokohama2020-cl@c-linkage.co.jp  
公式ホームページ : www.yokohama2020.jp

6. 日本開催の経緯

オリンピックの年に 4 年ごとに大規模な国際スポーツ科学会議が開催されるようになったのは、1964 年東京オリンピックの 때가最初であると言われています。2020 年に再び東京でオリンピック・パラリンピックが開かれるこの機に、国際スポーツ科学・体育協議会（英：International Council of Sport Science and Physical Education, 略称：ICSSPE）の協力のもと、日本でこの歴史を継承する国際会議を開催し、当該分野と人間社会への発展に大きく貢献することを目指して、本会議は開催されます。

開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人参加者
2008 年	広州 (中国)	公開なし	公開なし	公開なし
2012 年	グラスゴー (イギリス)	公開なし	1939 名	公開なし
2016 年	サンパウロ (ブラジル)	公開なし	公開なし	公開なし

## 7. 日本開催の目的と意義

ICSSPE は身体活動やレクリエーション・スポーツの科学的研究を促進するために設立された国際機関です。1958年、パリにおいて国際スポーツ・体育協議会（ICSPE）として発足し、1982年に現名称となりました。ICSSPEには現在、約230のスポーツ・体育・スポーツ科学関係の国際・国内団体が加盟し、ユネスコ、国際オリンピック委員会（IOC）、世界保健機構（WHO）、国際体力医学会（FIMS）等とも密接な協力関係のもとで活動しています。ICSSPEは数百万人を数える当該分野の世界最大のネットワークをもって、学際的な協力関係を創造し、調査研究・教育・健全なスポーツ活動の提唱を通して人間社会の発展に寄与しています。

国際会議の開催が珍しくなくなった今日でも、本会議のような体育・身体活動・スポーツに関係する多分野・多業種の専門家が一堂に会し共同して、複雑化した社会における諸課題の解決の糸口を探り、将来を展望することは、大変ユニークで貴重な機会となります。

プログラムは、メインテーマ“Contributing to a Sustainable World”（多様な人々が共に生きる世界をめざして：体育・健康・スポーツ科学の貢献）を具体化する多彩なカテゴリーで構成されています。基調講演に続くシンポジウムでは、分野横断的な学際性の高いアプローチや、多様な文化圏からなる国際比較を旨とし、議論の交流を深めることで新たな気づきや研究開発の創造を刺激します。さらに一般研究発表においては、カテゴリー内外の多数の研究交流の場を提供します。

## 8. 開催計画の概要

### 1) 会議日程

	午前	午後	夕方／夜
9月8日 (火)	エクスカージョン	受付開始 開会式・基調講演	歓迎レセプション
9月9日 (水)	学際テーマセッション シンポジウム 一般発表 (口頭、ポスター)	学際テーマセッション シンポジウム 一般発表 (口頭、ポスター)	
9月10日 (木)	エクスカージョン 学際テーマセッション シンポジウム 一般発表 (口頭、ポスター)	学際テーマセッション シンポジウム 一般発表 (口頭、ポスター)	
9月11日 (金)	学際テーマセッション シンポジウム 一般発表 (口頭、ポスター)	学際テーマセッション シンポジウム 一般発表 (口頭、ポスター) 閉会式	ガラディナー
9月12日 (土)	一般公開企画		

### 2) 参加予定者

国内	1,000名
海外	1,500名
合計	2,500名

3) 参加予定国 73ヶ国・地域

アイルランド、アルゼンチン、アルバニア、イスラエル、イタリア、イラク、イラン、インド、インドネシア、ウクライナ、英国、エジプト、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、ガーナ、カナダ、韓国、キューバ、ギリシャ、クウェート、グルジア、クロアチア、ザンビア、シエラレオネ、シンガポール、ジンバブエ、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロヴァキア、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、ナイジェリア、日本、ニュージーランド、ネパール、ノルウェー、パキスタン、バルバドス、ハンガリー、バングラディッシュ、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、米国、ベネズエラ、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マダガスカル、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モナコ公国、モルジブ、モンゴル、ヨルダン、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア、他

4) 会議使用言語

英語（一部日本語）

9. 寄附金を必要とする理由

2020 横浜スポーツ学術会議の開催に際しましては、約 2,500 名の参加が予想され、開催に要する費用は 178,750,000 円と推計されます。

これらの諸経費は、学会補助金、参加費等で賄うのが基本であります。個人参加者の負担にも限度があります。また、節約による経費削減につとめ、必要経費の圧縮をはかる方針であります。その努力にも限りがあり、必要経費の相当額は関係諸団体や企業の寄付に頼らざるを得ないのが実情であります。必要経費 178,750,000 円のうち、4,000,000 円を寄付金により充当したいと考えております。

諸事多端の折から、誠に恐縮ではございますが、本会の実情と将来性をご賢察の上、何とぞ格段のご援助並びにご高配を賜りたく心よりお願い申し上げます。

なお、寄付金として各社が公表することに同意いたします。

10. 収支予算（案）

単位：千円

支出内訳		金額（千円）	
1. 会議準備費	(1) 人件費	500	
	(2) 旅費	0	
	(3) 庁費	1,000	1,500
2. 会議運営費	(1) 人件費	500	
	(2) 旅費	0	
	(3) 庁費	2,000	2,500
合計			4,000

寄附金募集要項

(1) 募金の名称

2020 横浜スポーツ学術会議 寄付金

(2) 募金の目標額

4,000,000 円（総額：178,750,000 円内）

(3) 募金期間

2019 年（令和元年）10 月 7 日（月）～2020 年（令和二年）9 月 7 日（月）

（注：会議開催日前の銀行営業日まで）

- (4) 寄附金の使途  
2020 横浜スポーツ学術会議および関連諸行事の開催、運営費用に充当します。
- (5) 寄附金申込先  
独立行政法人国際観光振興機構 MICE プロモーション部交付金担当  
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-1 細井ビル 4 階  
電話：03-6691-4852 Fax：03-6856-1330
- (6) 寄附金振込方法  
別紙のフローチャート通りとなります。  
別紙申込書を国際観光振興機構にお送りください。  
寄附金申込書を受領し確認次第、国際観光振興機構より寄附金申込受理書を送付いたします。寄附金申込書受理書の受領後、指定口座番号にお振込ください。
- (7) 税法上の扱い  
この寄附金は、特定公益増進法人である独立行政法人国際観光振興機構への寄附金として、税法上の一般寄附金とは別途に損金算入等の優遇措置が講ぜられます。